素材はいいんです

鹿児島羅針盤

Profile

株式会社　商工組合中央金庫
鹿児島支店長

堂園　哲也氏

1966年鹿児島県鹿屋市生まれ。
平成元年、東京大学農学部を卒業後、同年商工中金に入庫。神戸支店次長、組織金融部次長、松山支店長、業務推進部参事役などを経て平成27年3月より現職。

東京から赴任してきて早8か月。高校卒業以来30年振りの鹿児島生活。懐かしいとはいえ、出生は大隅半島の私。子供の頃、観光気分で訪れた天文館の近くに住めるのは夢のようである。上町地区や城山は歴史や文化を身近に感じることができ、自分が文化人であるかのような優越感を与えてくれる。鹿児島の食は昔から大好きである。疲れた時には桜島に勇気を、温泉に元気をもらう。最近は降灰がトンとご無沙汰なこともあって何とも生活しやすい街である。

さて本業（金融経済）のお話。こちらは子供の頃には知る由もなく初めて知ることばかり。地公体や中央会、商工会議所やお取引先などステークホルダーの皆さまに色々と教えを請い勉強している最中である。

『素材はいいんだよなぁ』

最近、地方創生（地域活性化）にスポットがあてられているが、鹿児島についてそれを考える時、まず出てくる言葉がこれである。都道府県別魅力度ランキングは20位とまぁまぁ（これもアピールが上手ければもっと上位になると思う）。桜島や温泉、奄美大島などの観光資源に恵まれ、近代日本の礎を作った歴史がある。黒豚に代表される農畜産物の品質では国内トップクラスではないか。（最近宮崎にやられちゃっているが）芋焼酎＝鹿児島というブランドもある。それが県民所得の増加につながらない。要するに付加価値を付けることができない。付加価値が付かないので十分な雇用の受け皿になれない。若者が県外に流出する。県内の活力が益々低下する。こんな負のスパイラルに陥っている気がしてならないのである。

鹿児島に住み鹿児島の経済に触れて感じることがある。それは内需型（域内型）企業が思った以上に多いということである。商流が域内で完結しているためそれほど景気の波を受けない。将来のマーケットが縮小することは目に見えているが当面生きていけない訳ではない。こうした環境が危機感を希薄化させ、将来を見据えた大胆な発想を阻害しているのではないか。

いよいよTPPが大筋合意となった。鹿児島にとって大いに影響があることは間違いない。ある意味『黒船襲来』である。当時の薩摩藩は、一藩で大英帝国に戦争を挑む『勇猛さ』と、コテンパンに敗れて敵を知るや直ちに留学生をイギリスに送り大国に学ぶ『柔軟さ』と『進取の精神』を併せ持つ雄藩であった。今こそ先人に学ぶときである。鹿児島の食材や製品を域外に売る。鹿児島に人を招き入れる。そして外貨を稼ぎ内需型企業の活性化にも繋げる。例えば生活水準が急速に向上している中国や台湾などアジアへのアプローチについて国内において地理的な優位性は間違いなくある。そうした優位性をどう生かすのか。変化を恐れず大胆な発想で鹿児島の未来を考えてみたいものである。

発行日／平成28年1月22日発行通巻35号
発行者／公益社団法人鹿児島県特産品協会
〒892-0821 鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館内 TEL.099-223-9177 FAX.099-227-0768 http://www.k-p-a.jp